



「トリノ——新しい歴史への旅」 多木陽介

無意識 都市 歴史という創造力
夢
芸術 カタストロフィ

「亡命——瓦礫と想起の先へ」 中山智香子

破局 文明
難民 瓦礫 displacement

「写真——‘最後の人間たち’への眼差し」 伊藤俊治

歴史の詩学 アウラ アメーバ論
PROVOKE 死者の支え
写真の無意識 ルシフェル/ルシフェラーゼ <墮天使/蜚>

「キーファー——廃墟に舞い降りた天使」 関口裕昭

歴史の天使 カバラ 書物
パウル・ツェラン 断片の再結合 ホロコースト
ドイツ史

「ベンヤミン——幼年期の記憶、記憶の幼年期」 今福龍太

前成 präformieren 歴史記述 幼年期 幽霊
触覚 記憶 書くこと écriture

〈多木浩二継承シンポジウム〉

子供が子供であったとき——カタストロフィ・戦争・記憶の識闘

多木浩二（1928-2011）が遺した仕事は、彼の思索と著述のジャンルが越境的であったのと同じように、異なった領域で思索・活動する人々に多大な精神的・思想的影響を与えつづけている。没後一年あまり、多木浩二が執筆・構想の途上で中断することになったいくつもの思想的プロジェクトの重要性を、私たちは三・一一の衝撃の後にあらためて深く実感することになった。多木浩二であれば、破局への覚醒をうながされるこの新たな世界の到来をどのようにとらえるであろうか？ このシンポジウムで私たちは、多木浩二の思想的精神を深い部分で継承しながら、カタストロフィや戦争や記憶にかかわる危急の主題をめぐる議論してみたい。具体的には、多木浩二が私たちに託した問題系をトリノ、亡命、写真、キーファー、ベンヤミン、の五つの切り口から問い直すことが試みられる。シンポジウムの空間は、本質的に国家離脱的な多木浩二の哲学を受け止めて、多木自身も愛したメキシコ大使館の別館を借りて行われる。

2012年9月28日[金]

開演：15：00（～20：00）※来場者全員による総合討論も含む

会場：メキシコ大使館別館 エスパシオ・メヒカーノ

東京都千代田区永田町 2-15-1

TEL 03-3581-1131/5

※入場無料（別途資料代）

※要事前申込（レセプション参加希望の場合は同時に申し込んでください）

※レセプション：21:00～23:30「SALVATORE CUOMO 永田町」
会費 5000-5500円/定員 40名

※お申込／お問合せ：E-mail / masa-ino@violet.plala.or.jp
Tel / 03-3468-6333



主催：多木浩二継承シンポジウム企画委員会 後援：在日メキシコ合衆国大使館